

令和 7 年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

市民文教委員会

|       |                                                                                                                                   |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時  | 令和 7 年 4 月 26 日(土)午前10時から11時30分まで                                                                                                 |
| 開催場所  | 舞鶴市役所本館 4階                                                                                                                        |
| テ ー マ | 次世代に継承する文化活動の活性化<br>～すべての人が文化芸術に出会う機会を～                                                                                           |
| 参加市民  | 25 人                                                                                                                              |
| 出席議員  | 担当委員会：市民文教委員会<br>谷川眞司、仲井玲子、伊田悦子、上羽和幸、眞下隆史、水嶋一明<br>サポート委員会：産業建設委員会<br>今西克己、尾関善之、上野修身、高橋秀策、福本明日香、松田弘幸<br>オブザーバー<br>肝付隆治 議長、野瀬貴則 副議長 |

内 容

【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次のような方々に御参加いただくこととし、事前に舞鶴市における次世代に継承する文化活動の活性化(市民文化の振興の取組)に関する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

- (1) 学生(文化系クラブ等に所属されている学生)
- (2) 文化活動をされている方
- (3) 文化協会に所属されている方
- (4) テーマに関心を持つ市民(公募)



当日は、①市民主体の文化活動の担い手不足。②次世代の継承者育成が十分でない現状に対し、その要因と感じていることについて意見交換しながら課題を抽出。③文化活動の主役である市民が主体的に活動できるよう担い手を確保し、文化活動の活性化につながる方策。④次世代への継承を図る取組について、その解決策などを検討した。

各グループの意見交換の内容は、以下のとおり。

**1班** 担当議員：(副委員長)仲井 玲子  
市民参加者人数：4人

**【出された課題の主なもの】**

- 1 後継者不足：既存の活動を継承する人がいない。
- 2 ゆとりがない：子どもは習い事、親は仕事、その親の世代もまだ現役で働いている場合が多く、文化活動を行う時間がない。
- 3 意識の希薄さ：文化への関心が薄らいでいる。文化を守ろうという意識が希薄。
- 4 文化活動の周知が行き届いていない：誰がどこでどんな活動をしているのか知らない。文化振興課主催の「文化の見本市」が行われているが、周知が不十分である。



**【検討事項と対策】**

- 1 まずは社交の場をつくる。多世代が集まることで、お互いがお互いに対してできることが分かり、相互共助の関係が築けるのではないかな。
- 2 特に意見が出なかった。
- 3 若者からアイデアをもらう。次世代に任せる。新たな若者文化であるSNS、特に若者に人気のあるショート動画を作るのが得意な若者に伝統文化や様々な文化活動の発信を担ってもらう。大人世代の文化と若者文化の融合。
- 4 3は、文化の継承のための発信することで文化継承への意識をしっかりと持ってもらうとともに実際に周知することになる。ラジオや京都新聞で地域の問題をしっかりと伝えてもらう。

**2班** 担当議員：(委員)水嶋 一明  
市民参加者人数:5人

**【出された課題の主なもの】**

- 1 若者の文化離れ等が進んでいる課題として、特に若い人たちが興味を持つ活動が少なく、文化のイベントなどに参加する機会が少ない。中でも、特に中学生や高校生の若い世代に浸透していない等、若い世代が文化に触れる機会が少ない等の課題が指摘された。
- 2 行政の文化活動等に関する広報・周知等の課題として、習い事などの種類をもっと知りたいが、文化事業の情報発信が少ない。もっと催しの開催や事業の情報を様々な方法で周知してほしいなどの課題が指摘された。



- 3 行政と関係団体が一緒になって文化の充実に取り組んでいかなければならない課題として、流行しているものがあまり文化のイベントなどに取り入れられていない。また、文化の担い手が減少している中、今後、担い手の育成が急務であるなどの課題が指摘された。

#### 【検討事項と対策】

- 1 若者の文化離れ等が進んでいる課題を解決するための方策として、コンサート、展示会、パフォーマンス大会など開催を増やし、子どもたちを招待する。また、親子で参加できる文化活動イベントを増やしてほしい、趣味と文化を合わせたイベントや文化についての授業を増やすなどの方策が提案された。
- 2 行政の文化活動に関する広報・周知等の課題を解決する方策として、行政が関係者や関係団体と一緒に、文化活動の広報に努めることが大切であるとの方策が提案された。
- 3 行政と関係団体が一緒になって文化の充実に取り組んでいかなければならない課題を解決する方策として、少し若者の流行を取り入れたりした情報や文化活動の開催情報など、SNSや市のホームページ、チラシなどで積極的に発信してほしい。また、文化団体から積極的に学校等での活動に参加できるように働きかけ、児童・生徒に実際に活動を体験してもらえる場を増やす取組や、若者の文化活動の場の提供などの方策が提案された。

#### 3班

担当議員:(委員)伊田 悦子

市民参加者人数:5人

#### 【出された課題の主なもの】

- ・ 若い人たちの交流の場が少ない。
- ・ 練習場所の確保に苦労する。
- ・ 会場の利用料が高い。
- ・ 発表の場が少ない。
- ・ 会員不足・会員の高齢化。
- ・ 若者が興味を持つイベントが少ない。
- ・ まち全体の魅力
- ・ 常設のコンサート会場がない。
- ・ 大学がない。(ということは若者が少なく活性化に欠ける)
- ・ 現在の仕組みが十分活用されていない。
- ・ 伝統文化の担い手不足



#### 【検討事項と対策】

- ・ 公民館のさらなる活性化
- ・ 美術館をつくる
- ・ 学校への出前コンサート(これを活用して文化を届ける。)
- ・ 文化の見本市の継続とさらなる拡充
- ・ 練習会場を安価で提供する。
- ・ 現役世代へのアピール
- ・ 今ある仕組みを市民に広報
- ・ 舞鶴出身の文化人などを活用する。
- ・ 文化を届けるあらたな仕組みづくり



**4班**

担当議員:(委員)上羽 和幸  
市民参加者人数:5 人

**【出された課題の主なもの】**

- ・ 大人は、やりたいことを話しても否定から入るのがいけない。
- ・ 活動する場が限られている。
- ・ 活動に対する敷居が高い。
- ・ 市民の自主性がない。
- ・ お金がない。舞鶴市のサポートが少ない。
- ・ 文化活動する学生が少ない。
- ・ 都市部とのアートの格差がある。
- ・ 文化財の修繕費用が不足している。
- ・ 祭りや行事の担い手が不足している。
- ・ 舞鶴市内の文化財について情報が分かりにくい。
- ・ 文化、芸術に触れる機会が少ない。
- ・ 学校では部活動の顧問が担い切れていない。
- ・ 教育のやる気がない。
- ・ 好きなように披露する機会が少ない。
- ・ 相談できる相手がいない。
- ・ サポートする人にも、文化、芸術に興味を持ってほしい。

**【検討事項と対策】**

- ・ やる気のある人で実行委員会をつくって取り組むべきである。
- ・ 文化、芸術に対する予算をもっと確保する。
- ・ 小さなアクションでも続ける。
- ・ 文化芸術活動のPRを積極的に行い、賛同者を増やす。
- ・ とにかく興味を持ってもらう。
- ・ 学校の活動は資金不足である。市がサポートして予算がほしい。
- ・ 学校で音楽活動をできる場が必要である。
- ・ 学校や市内を越えて、同じ趣味でつながれる場があるとよい。
- ・ 舞鶴市以外で頑張っている人を紹介する。
- ・ 市民みんなが、活動する人の応援団になっていく。
- ・ 作品の展示を幅広く行い、総合文化などの一部施設の展示にとどまらず、皆が目につく街角などに展示する。
- ・ 学校での活動は、卒業していくと後継ができないので、学校以外でも様々な市民に応援してほしい。
- ・ 各文化芸術の大会や式典に市長や議員、教育長など、来賓が積極的に出席して盛り上げてほしい。
- ・ 文化芸術を行う側も、もっと要望を具体的にし、言語化した上で伝える努力をするべき。支援する側は、こうした要望を知ってほしい。
- ・ 受け身になっている人が多いので、もっと積極的に自主的に取り組むべきである。

- ・ 学校へ、文化人を派遣する。
- ・ 舞鶴市の文化祭を盛大にする。
- ・ 教育委員会の協力が必要である。
- ・ 赤れんがパークに常時展示するところをつくる。
- ・ 舞鶴市出身者で文化に関する発表をする。
- ・ 俳句と写真、音楽のコラボをする。
- ・ 毎月、市長が俳句を作って発表する。
- ・ 小学生にも俳句を習い、作る機会を持つ。

**5班** 担当議員:(委員)眞下 隆史  
市民参加者人数 : 6 人

### 【出された課題の主なもの】

- ・ 文化に触れる機会が減少している。  
(特に学校の授業も減少)
- ・ 文化活動の参加者を集めることや、偏りが生じたり、高齢化で若者が少なく、継続することが困難になっている。
- ・ 文化活動の情報が共有されておらず、誰が何をしているのか分からない。広報する難しさや、幅広い世代が交流する機会がない。
- ・ 根本的に、文化とは何かを理解しておらず、活動が閉鎖的になったり、極端な文化が増えたり、多様な文化を認めなかったり、「見る文化より考える文化」が必要ではないか。



### 【検討事項と対策】

- 1 行政としては、まちや人に文化が必要であることを明確に伝え、市民が一度「文化を考える」機会を創出し、「まちや人に文化を耕す作業」を総出で取組事業をお願いする。
- 2 あらゆる文化活動の情報を集めるプラットフォームを創設し、発表会の開催やSNSでの発信を活発化させ、まちで文化を応援できる仕組みづくりを構築する。
- 3 市が開催するだけでなく、小学校単位でよいので近くの文化に触れ、児童を中心とした(仮称)評価委員会を設置し、児童から地元の文化活動に表彰をする制度を構築する。文化を大人が指導し子どもが表彰することで、文化を広め次世代への継承につながるサイクルを促す事業を提案する。

### 【今後の予定】

文化の担い手不足や次世代の継承育成が十分でない現状と課題を再認識するとともに、文化活動の主役である市民が主体的に活動し、文化をけん引できるようにするための方策について意見を共有することができた。出された意見をもとに調査研究を進め、行政が実施すべき支援や施策などを整理して、市への提言を目指す。